

「第5回 成瀬ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する関係住民の意見聴取結果
【議事録】 【電子メール等で寄せられた意見】

平成24年11月20日

国土交通省 東北地方整備局

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を
聴く場

日 時：平成24年10月22日（月）18:00～19:30

場 所：東成瀬村山村開発センター 大集会室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

東成瀬村の●●といます。僕は、この成瀬ダム計画というのは、本当に巨額なお金、これは震災復興にも使えるであろうお金、この貴重なお金と、本当に大切な自然の両方を引きかえにしなければならないものであって、ぜひとも中止していただきたいと思っています。

この東成瀬村の価値の中の本当に最大のものというのは、僕は手つかずの自然が残っていることだと思っています。村は日本で最も美しい村連合というのに入りましたけれども、それこそがほかの市町村に対しても胸を張って誇れるものだというふうに常々思っているわけです。

この報告書を見せていただいて、ダム費用を各対策ごとに分割して比較してあるというのが恣意的ではないかというような感想を持ちました。また、報告書の中の環境への影響は小さいというふうに書いてありましたけれども、このくらいの自然の破壊というのは大丈夫だという考えで事を進めて、本当にその悪い例が、自然を甘く見た悪い例が原発事故だと思うのですけれども、人間の考えを越えて思わぬしっぺ返しを食らうという例はたくさんあると思うのです。このダムについて、村の人の意見を聞きますと、余りおおっぴらに皆さん意見を言わないのですけれども、聞いてみれば「何でこんなことをやるのかわからない、やめたほうがいいんでねえか」というような声をたくさん聞いています。賛成の方もいますけれども、賛成の方の多くは利水と治水の面でよくなるのではないかという期待を持っている方だと思うのですけれども、農民にどれくらい水があつたらいいかという聞き方をしたら、そうしたら農民というのは勿論ふんだんにあつたほうがいいわけなのです。

僕は埼玉から引っ越してきたのですけれども、埼玉でも田んぼをやっていたのですが、向こうでもっともっと水の条件が悪かったです。本当に週に一遍ぐらいしか

入れられない、順番待ちをして、それで名前を書いて、予約をして、ドッとたくさん入れてというようなことをして、みんな農民は水に関しては本当に工夫してやりくりして日本中頑張っているわけです。だから、どれだけ必要かといったらふんだんにあったほうがいい。その許された条件の中で農民は工夫をしてやるものだと思うのです。だから、この地域が本当に特別に死活的に水事情で逼迫しているというふうには僕は思えないのです。また、今後そこまでの水需要の増加はないというデータもぜひ見ていただきたいと思います。とにかく数千億をかける水というのは余りにも高過ぎますよね。それほど逼迫した水需要とは私は思えない。また、成瀬ダムには実は治水効果というのは極わずかしかないというデータも出ておりますので、ぜひよく見ていただきたいと思うのです。

成瀬ダムの裁判やっていますけれども、その裁判の中においてもまともな反論をいただいていないというふうに聞いております。既に今では先進国の多くが、ダムは環境に対して害があるというふうに断定してやめているダム計画、こういう無駄な巨額な予算がまかり通るといえるのはよっぽど僕なんか思うに大手のゼネコンや何かが政治に影響を及ぼしているのかな、なんて勘ぐりたくもなるわけでありませぬ。

今回のダム計画で水没すると言われている北ノ俣沢なのですけれども、ここは本当に素晴らしいところでして、うちの家族もよく遊びに行くし、うちに東京方面からよく遊びに来る友達がたくさんいるのですけれども、口々にここは本当に素晴らしいなど、ずっと釣りをしたり、溪流歩きしたり、そういうふうにしたいた、こんなところがなくなるなんて、こういうところがなくなると聞いて何にも言わないなんて、秋田の人どうしたのなんていう声をたくさん聞きます、私も当然だと思うのですけれども。

この東成瀬村にはちょっと前に制定されたふるさとの歌というのがあるのですけれども、緑とともに生きていこうみたいなフレーズがあります。各学校の校歌なんかでも本当に自然が大事だという歌詞が入っています。日本で最も美しい村連合に入っているこの東成瀬村であるならば経済効率やなんか様々なことよりも本当に自然を優先する、大切にするというような哲学をこれから持っていてもいいのではないかと思ったりするわけなのですけれども。

私の意見は以上でございます。

○住民（２番）

十文字町の●●と申します。

ここ最近 I M F が日本国内で総会を開催いたしました。この I M F が何年か前に日本政府に対し、先進国の中で最も財政が深刻化しているのは日本であるとして、財政再建の具体策を講じるよう勧告を行いました。

I M F がなぜ日本にだけこのような勧告を行ったかといえ、それはとりもなおさず日本の財政がいかに危機的状況にあるかを象徴しているからだと思います。

一方、日本の人口はどのような状況にあるかといいますと人口減少が始まりました。単に始まったのではなくて、過去に例がないほどのスピードで人口減少が続くだろうと予測されています。人口減少が続けばどういう現象が起きてくるのでしょうか。当然米の需要は減るでしょうし、水の需要も減ることになります。米の需要が減るということは、米は増産するのではなくて減産が必要になるということだと思います。減産が必要だということは、当然減反が増えると思います。減反が増えるのにどうしてダムをつくって農業用水を増やすのでしょうか、こういう理屈が成り立つのでしょうか、そもそも。

I M F がなぜ日本にだけこういう勧告を行ったかといえ、先ほども申し上げましたが、やはり日本の財政状態が G D P の 200% 以上もの借金を抱えているということと無縁ではないと思います。私はダムについては何もかにも反対しようとは思いませんが、財政と無関係にダムだ、道路だ、新幹線だというわけにはいかないのではないのでしょうか。

これから人口が減っていきますと米が減るだけではなくて、やっぱり水の利用も当然減ると思います。交通量も減るのではないのでしょうか、人口が減るのですから。そうすると、こういう方面に余り金をかけますと財政がもたなくなってくるのではないかというのが私の心配しているところです。いや、多くの方がそう思っているのではないのでしょうか。そう考えますと、やはりこれから最も考えなければならぬのは、やはり財政の再建ということをそろそろ考えなくてはいけなくなっているのではないのでしょうか。景気が回復すれば借金は返せるとのんきなことを言っている人がいますが、景気は回復するどころか、これからだんだん悪くなるということではないのでしょうか。そういうことが心配されると思います。

なぜかといえば、まずヨーロッパの状況を見てください。もう惨憺たる状況かと思えます。では、中国はどうでしょうか。ヨーロッパが中国から製品を買ってくれなければ、やっぱり中国も大変だと思えます。もう既に中国の経済状態は右肩下がりが続いていると思えます。アメリカはどうでしょうか。やはり膨大な財政赤字と高い失業率、過去には大量の国債を発行して中国に頭を下げて引き受けてもらってどうにかこうにか持ちこたえています、アメリカを代表するゼネラルモーターなんていうのは最近話題にも上らなくなりました。さらに、最近までものすごい勢いで伸びてきた新興国、ブラジル、ロシア、ベトナム、タイなどは、最近経済力がガクンと落ちてきました。

日本の周辺の国々がこういう状況で、果たして景気が回復するのでしょうか。日本だけが景気が良くなるというのは考えにくいと思えます。私はむしろ悪くなると、これから。そういうことが心配されると思えます。

財政状態を考えると、とてもダムだ、道路だ、新幹線だというわけにはいかないのではないのでしょうか。

以上が私の言いたいことです。終わります。

○ 住民（3番）

十文字町から来ました農家の●●といます。

平成6年の岩井川地区で、これは成瀬ダムのパンフレットなのですが、ここにこういう写真が出ておまして、国道342号線のほうに洪水で冠水したと、いかにも成瀬ダムができればこの洪水が解決するというふうなニュアンスのパンフレットなわけなのですが、その後、湯沢工事事務所長になられた●●さんという方がおられましたけれども、成瀬ダムによってもこの種の洪水は解決できないということをおられました。なぜならば、あそこは合居沢という、397号線のほうから来る水、あのときは非常に多かったわけです。要するに、ダムというのはそのダムのある上流にいっぱい雨が降って、それをコントロールできればもちろんその下流は効果をなすわけなのですが、雄物川水系全体を見て、ごく一部しか成瀬ダムはカバーしていないわけです。同様にここ50年ぐらいで雄物川水系で洪水が起きている。特に大仙市周辺の洪水を見ても、ここに同様に写真が載っておりますけれども、雄物川に流れ込む中小河川の合流地点で大きな洪水が起きてお

るわけです。ですから、そういった洪水を真摯に考えてみますと、そういう非常に局所的なダムによる方法ではなくて、その合流点の水のコントロールをどうするかということを真摯にシミュレーションする、どういうふうな方策がいいかということを中心に考えていただきたいと。ダムというのは、そういう意味では非常にギャンブル的であるというふうに私は思っております。

さて、次が環境の問題ですけれども、隣の皆瀬川では非常に川が汚れて、濁りの川となっております。そして、この成瀬ダムによっても選択取水というものを、そういう設備をするから川は汚れないのだという、そういう主張をされているわけですけれども、その最新の選択取水を取り入れた横手市の大松川ダム、そこの下流を見ているわけですが、しばしば濁っております。こういった現実をもちろん役人の方は見ているわけで、そこをきちんと評価すべきであると。そして、ダム先進国でありますアメリカでは、こういった河川への影響を考えまして、ダムを撤去するという方向に動いてきております。日本の官僚の皆さんは優秀だと思います。そういった世界的な流れというものを十分考えて、日本のダム政策を方向転換する時ではないかというふうに思っております。

この東成瀬村には赤滝という、私は非常に素晴らしい滝だと思っている、そういう滝があります。なぜ素晴らしいかというと、落差はそんなに大きくないのですけれども、上流、下流、そして脇から見る事ができる非常に珍しい滝です。秋田には素晴らしい滝がいっぱいありますが、やはり滝というのはどうも下から眺めるとい、そういう滝なわけですけれども、赤滝の場合はすべて上から、下から、横からという、そういうすばらしい景観を持った滝です。この自然遺産をぜひとも残すべきだと、そういうふうに私は考えております。

以上で終わります。

○住民（４番）

●●と申します。よろしく申し上げます。野球ならば４番打者なんていうのはすばらしいと思うのだけれども、私はどっちに向けてもそういう立派なことは言えませんが、ふだん思っているダムとか自然に対する思いとか、経験を若干ですが、語りたと思います。それで意見にかえたいと思います。

初めにですけれども、前のNHKの土曜コラムで、朝の熊の出没が今年に入って

非常に多いということで、熊出没問題で日本防災機構の会長、NHKの元解説委員の誰でしたっけ、皆さんわかると思いますが。彼は、自然と人間との関係において、さっき●●さんもお話しなさっていましたし、皆さんもお話ししていましたが、共存しなければ本当のいい地域社会ではないということで、彼は熊を撃ち殺すのは全てではないのではないかなということを書いていました。本題に入る前に、だからダムというのはとてつもなく自然を破壊するものだということを根っこに据えて、私たちも、それから行政に携わる方もよくよく考えてもらいたいと思うのです。

でもって、調査に入るときに、何年前ですか、あそこの車を置くところの休むところ、ちょっと地点は忘れたのですが、さっき話された北ノ俣沢のほうではないですけれども、クマタカの巣があったのですけれども、それ調査の妨害ではないでしょうけれども、調査の方がいろいろ立ち回っているうちにクマタカの巣が落ちてしまったというふうな、今の熊との関係ではないですけれども、非常に嘆き悲しむようなことが、残念ですけれども、平然と起こりました。ということは、やっぱり私たちから見れば本当に心痛めることではありました。ということで、本題に入ります。

ダムの話というのは、私もこのとおりの成人式3回を超えた年代でして、昭和30年中ほどから40年にかけて米をまずつくれ、産めよ、増やせよで、500億ドルとかということで、猛烈な増産運動が始まりまして、農村は開田、開畑のブームがありました。

ところが、昭和40年代に入ったら、今度はグローバル社会経済の中で減反政策が急に始まりました。ということで、米作のための、残念ですけれども、米の農業用水というのは間に合うようになったのです。ダムをつくらなくてもいいようになったわけです。言ってみれば30年末から40年にかけてのこのダム建設というのは米増産時代の遺物というかな、悪い意味でのというか、遺産であるということをもまず考えの基本に、根っこに考え直すべきときだと思うのです。

2つ目です。治山、治水の話になると思いますけれども、●●さんという全国ダムの研究家の方、女性の方がいるのですけれども、治山、治水の費用対効果は彼女の研究によれば0.9前後とかとっておられました。ということは、●●さんもおっしゃいましたけれども、ダム建設に1,530億円までかかると。県北のこの前完成

した、何ダムでしたか、私はこのごろ物忘れがひどいものですから。それだって結局完成するまで2倍ばかりかかっているのです。ほとんど全国のダムはそうなのです。そういう意味で、3,000億円の投資効果があるのですか、それが本当に効果として住民福祉、住民生活、農業政策も含めて保障されるものなのか非常に疑問だというのがまず私の気持ちとしてあるわけです。

それから、3つ目です。自然破壊の問題ですけれども、さっき●●さんもおっしゃいましたけれども、水質汚濁です。あれは県の県営大松川ダムでしょうが、建設されて、水はまずある程度保証されたというのだけれども、やっぱり汚濁でアユ釣りのお客さんたちは、7月あたりからいた釣り天狗たちの姿は今は本当にめっきり少なくなったのです。ましてやあそこの増田のところの合流点なんかは皆さんごらんになっているのだからどうかかわからないけれども、やっぱり皆瀬川のダムの水はやっぱり濁っていて、ダムのない成瀬川の水はきれいで、やっぱり合わない男と女の関係みたいな感じで、何かそのあたり考えるところがあると思うのです。

それから、4つ目です。先ほど国交省の担当の方の説明にもありましたけれども、治水の面です。水害常襲地点と言われる仙北の強首と言うのですか、洪水地帯なようですけれども、堤防というか、かさ上げをすれば少ない費用で、ダムで3,000億円、1,500億円かけるなんていうよりも非常にできるのではないかと。ということは、刈和野のあそこの10年前後までは、15年ぐらい前ですか、洪水の常襲地帯でした。ところが、かさ上げしてやったら、もう今はほとんど洪水がなくなったのです。ということで、ダム、ダム、ダムなんていうのはよく言うのだけれども、ダムの反対はムダだということを私はもう見ているのです。ましてや、平鹿の奥の奥のあそこの高いところに水害のダムをつくったって上流ですからね、この水害、治水の効果なんていうのは、私はさっきの女性の研究者ではないけれども、やっぱり効果は危ういというか、疑問だと思うのです。

それから、5つ目ですけれども、県南の役内川ですね、今は県南の清流としてアユ釣りの客、それから花火大会の場所ですけれども。やっぱりあれですよ、反対運動があって清流が守られたということで、最後の清流と言われる四国の四万十川ではないけれども、やっぱり自然があるというのはすばらしいことだと、自然の手つかずの川というのは。それをよくよく考えてほしいということです。

それから、まとめにかかりますけれども、やっぱりダムで栄えた地域は日本全国

どこにもありません。隣の湯田ダム、昭和41年のときに完成したようですけれども、すばらしいなんて言いながら、まず今の閑散とした、人の減った湯田、湯本の地域を見ればもう泣けてきますよね。ということです。

それから、さっき私も言われたのですけれども、きょうの公聴会ですね、村民の方、村長はPRするのかなと思ったのです。村民みんなに来てもらいたいなという気が本当にあるのか。言ってみればさっきの説明の方は30分しゃべると言ってみれば50分しゃべったのですよ。我々がしゃべれば隣の担当の方は、●●さんでないけれども、「やめ、時間だ」なんて言うのです。全くね、国、独占企業なものだから、残念だけれども、おめら下なんだから言うこと聞け、時間だから帰れと、とっとと終われと、言ってみれば愚民政治、大衆を見下しているというふうにしかなれないのですよ。

ところが、私達この年代になって、あの税、この税と、歌の文句ではないけれども、どんどん負担がふえていくのです。ダムももう3,000億円、この先真っ暗なのです。そのあたり、納税者は私だということをよくよく考えて、行政とかその他なんていうのは二の次、三の次だということを何か思う。よくよく考えてほしいということで、さっき資料100ページ、数百ページになるのですけれども、東電の被害申請書はそうでしたよ、私も聞きました。とてもではないけれども、被害を受けた人、そのページ見て、200ページの申請書のテキスト見て、申請書なんか書く気にならないというのだよ。やっぱりわかりやすいようにこの村、3,000人にわかるようなもっと楽なパンフレットを平鹿中に、対象者、農家にもみんなわかるようなパンフレットを20ページか50ページでもいい、そういうのをぜひつくり直してほしいということも要望しておきたいと思います。

それから、ダムやったけれども、皆瀬のダムもヘドロ溜まって、あれ豪雪のときにうまく流すようにということでやったけれども、つくればいいということではございません。さっきの説明の方は10年もつとか、20年もつなんて言ったけれども、それとともにどんどん底にヘドロが溜まってダムは使い物にならなくなるということで、時代としてはもう完全におくれているということも含めてほしいと思います。

最後ですけれども、有識者会議でオーケーとれたからと言ったけれども、その有識者会議なるものは、ここの村長さんと同じ組合長さんというのは、何ていうか、

みんなあの人達やめる人達なのです。やっぱり少ない収入で、負担をし続けるのは私たち国民だということよくよく考えて、やっぱり有識者会議でオーケーとれたからなんていうのは、これとんでもないことで、ダム推進の人たちの、言ってみれば、言葉悪いけれども、アリバイのためにやっているのではないか、有識者会議なるものの限界をよくよく考えて、余り当てにしないで本当の気持ち、思いは私たち住民であるということを訴えて終わりたいと思います。どうもありがとうございました。失礼します。

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を
聴く場

日 時：平成24年10月24日（水）18:00～19:30

場 所：横手市栄公民館 和室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

増田町から来ました●●といます。私らのパブリックコメントに対して一つ一つ丁寧に回答いただきましたこと、及びたくさんの治水、利水、それからその他に対していろいろと、物すごく資料も読み切れないうくらい膨大な数ですけれども、そういうことに対してのいろいろとご研究あるいはご検討なされたことについては感謝いたします、ご苦労さんと思います。

ただ、1つ最初に言いますと、この公聴会のあり方ですけれども、住民の意見を聴くといいながらも、それから検討の場もそうですけれども、私はずっと、昨年度からホームページを河川事務所、それから秋田市も見ております。私はこの公聴会を知ったのは、たまたま2日ちょっと旅行しておりましたので、5日の金曜日の発表なわけです、その日付になっております。ところが、6日、7日、8日と連休なわけです。記者発表したとしても次の日載るわけです。ほとんどの人が見ないと思います。ホームページも多分休みはあけません。私は、10日の日に帰ってきて5日間ブランクがありました。またパブリックコメントをとるようすけれども、それについて5日から11月2日なのです。これもおかしいのです。3日間のロスあるのだったら3日間後に延ばしてもいいと思います。

何か住民の意見を聴くと言いつつも、この会場の選定もそうですけれども、いろいろあるかと思いますが、まず栄地区というのはダムについてはほとんど利益はありません。それから、大仙市の西仙北町もそうだと思います。やるならせめて利害関係のある場所で、横手市の中心街でやってほしいと思います。しかも、こういう状況ですけれども、もう少し多くの意見を聴きたい意思があるのかどうかだと思います。こういう和室でなくて体育館で大々的にやっていただきたいと思いません。そういうことがまず1つ。

今言いましたように、非常にいろんな案をご検討なされたご苦勞については感謝いたしますけれども、皆さん見ておわかりと思えますけれども、例えば胆沢ダムから水を持ってくるとか、出羽丘陵にトンネルあけてやるなんて、これ到底考えたって、考える必要もないような案まで出しているのですよ。そんなことに頭を使う必要があったら、もっと現実的なことに頭を使ってほしい。

例えば農業用水について言えますけれども、これもパブコメで言っていますけれども、皆瀬ダムの運用を変えればいいわけなのですよ。7月1日という四角四面な日でなくて、何も8月いっぱいとか7月いっぱい延ばせとは言っていない。しかも、この気象学が進歩している中でですね。あれも見ましたらダムを空にしてからまたあれするのに45時間くらいかかると言いましたけれども、台風の襲来だとか、集中豪雨だって非常事態ですけれども、台風の襲来は何日か前にわかるわけですよ。だから、そのときにやっておけばいいのであって、こういうアメダスや何かが進歩しているときに、そこに行って、実験して、ほかのものに考える、くだらないと私は思いますが、そういう案を出す。また実際にやって検討して、そっこのほうに頭を使ってほしいと私は思います。後でも言います。

それから、洪水対策は、成瀬ダムをつくっても全然意味がないのですよね。後の方でも言えますけれども、必要なのは雄物川中流域の刈和野とか、大沢郷ですか、あのあたりの堤防の整備なのです。言っているように流水の何%しかその影響を及ぼさない、遙か彼方にあるダムになるわけです。

私は思いますが、八ッ場ダムもそうですけれども、利根川整備基本計画と同じく雄物川もできておりません。なぜできないかという、私考えたのですけれども、ダム湖でなければだめだから、整備計画をつくって、堤防をつくってしまうとダムできなくなるからではないかなと、うがった考えを持っております。

後からまた言えますけれども、水道問題、その他について言えますけれども、人口が減っているわけです。例えば南外村なのですけれども、これもとても数百人程度で倍になるわけです、利水が。よくよく見たら全戸に普及させるためなのですけれども、ここに私持ってきてありますけれども、大仙市、横手市、湯沢市とも4分の1近く人口が減ります、4分の1以上、二十何%。それからいろんな節水機能がふえているわけですよ。そういう中で、水道が必要だということがそんなに多くなるとは思いません。

まして、私もそうですけれども、それから湯沢地区も同じでありますけれども、それらの集落は町と違って離れているわけなので、そこにつくる水道管が非常に距離が高くつくわけです。ということは、やはり利用者について、水道料金に高くはね返ってくると思います。消雪費は上がる、電気料が上がる。そういう中で、年寄りが新しく水道を引くお金はありません、下水道にしても同じです。そういう状況です。我々年寄りたちは早く死んでしまえってか、そういうことかと思えます。

それから、もう一つ、横手市長さんなんかは、いっぱい利水が必要だと言っていますけれども、今はT P Pが問題になっているわけですね。これに参加すると日本の農業、横手地域の農業なんていうのは壊滅的になるわけで、そうするとダムをつくるためには国交省はT P Pに反対をしなければならないというのが私の思いです。

○ 住民（2番）

●●がちょっと家庭の事情で来られませんので、私が読んでくださいということで代読いたします。同じく増田町の者です。

さて、計画されている工事中の成瀬ダムは、洪水調節の役目を果たすには無理があります。ご存じのとおり、成瀬ダムの集水面積は雄物川流域のわずか1.7%しかありません。これはさっき私が言ったとおりです。東北地方整備局さんでは治水寄与率最大4.7%としていますが、どのような計算をすればこのような数字が出るのか大きな疑問です。仮にその数字を認めたとしても最大で4.7%、余りにも小さい数字です。計画されているダムの下流には広大な奥羽山系の山々、沢、川が存在しています。少しでも川の洪水を抑えたい気持ちは理解できますが、微々たる効果のために巨額の工事費、税金が投入され、かけがえのない奥羽山系の大自然を破壊するのは成瀬川流域の住民として納得できません。

資料4の400ページに安全度。後半に、段階でどのように安全度が確保されるかとあります。中流部に進んできた段階的な改修工事、中流部の一部無堤箇所築堤がおおむね完了し、とあります。では、平成15年から平成20年度までと期間を明示し、110億円の事業費で計画された雄物川中流部では、中流部緊急対策事業はどのような経過を見たのでしょうか。用地の買収は、関係する家屋123戸の移転は何戸進んだのでしょうか。雄物川中流地区は約20キロにわたり無堤であるためとありま

すが、計画の新規築堤10.2キロのうち何キロ完成したのでしょうか。工事期間は過ぎていますが、ほとんど完成を見ていません。計画どおり緊急に対策事業を終えていれば、平成22年、一昨年6月24日、25日の水害はかなりの軽減を見たはずですが。仮に成瀬ダムができていたとしても、あの水害にどれだけの抑制効果があったのでしょうか。しかも、上流には玉川ダム、鎧畑ダム、南外ダム、大松川ダム、皆瀬ダム、大小合わせるとかなりのダムがあるのです。ダムには洪水が防げないのが証明された水害だと思います。

玉川との合流点から下流、特に東北地方整備局でも認識されているとおり、支流土買川合流付近では、水害の多発地帯、常襲地帯です。緊急対策事業が作成された区間を含めてその上流、下流部分の築堤や河道掘削など河川改修を急ぐべきであり、まさに緊急の課題です。流域の住民が雨降るたびに洪水に怯えています。ここには、私ら●●と一緒に昨年現地を見に行っております。そういう声であります。

成瀬ダムの代替案として、雄物川全川にわたって築堤するとか、全川にわたって河道掘削するとかという話ではありません。また、10年後とか20年後といった話ではないのです。近年経験する降雨は局地的であったり、ゲリラ的であったり、過去のデータが参考にならないような豪雨が多くなっています。流域住民の不安を鑑み、一刻も早く完成させるべきであり、待ったなしの状況です。

子吉川も見てきましたけれども、本流の水があふれているために支流の水が入れないで逆流している、いわゆる内部氾濫に近いと私は思います。ですから、やはりあの付近では、築堤を急ぐべきだと私は思います、あるいは遊水地ですね。

成瀬ダムは、国土交通省の説明資料によりますと何の障害もなく、予算も予定どおりおりると仮定して完成まで12年の歳月を要し、国交省の試算でこれから1,230億円のお金がかかります、残額ですね。しかし、東日本大震災の復興や、国の財政事情により成瀬ダムに向けられる予算には限度があります。ちなみに、昨年は19億数千万円、ことしは9億数千万円でした。単純に平均しますと1年に100億円ずつかけないとダムは完成しないわけですが、そのようなお金は現在の日本国にはないと考えます。

このようなことを考えまして、ダムの完成まではまだかなりの年数を要します。災害はいつやってくるかわからないのです。今やらなければならない緊急の対策をしてください。ダム建設は即刻中止し、ダムよりも洪水常襲地帯で雄物川中流部の

河川改修こそ重点的にやるべきだと思います。

以上です。

○ 住民（3番）

十文字町の●●といいます。ただいまのお話を聞きまして、私はここで発表するのが不適當ではないかと思ったのですけれども、一住民としてこのダムの問題についてこんなふうな考え方を持っている人というのは結構多いのではないかとということで、代表してということではないのですけれども、直接ダムの問題にかかわった人間ではありませんけれども、公共事業ということと関連させて、このダムの問題について、私はこういうことを考えています、ということを発表させていただきたいと思ってここに座っているところなのです。

それで、大まかにどういうことを話したいかという、公共事業ということに関連してになります。ですからほかの公共事業はいっぱいありますけれども、ダムを含めて無駄な公共事業をやめようではないかと、こういうことが合い言葉になってからしばらく経ちます。その無駄なというところをですね、だから公共事業自体を反対するという人はそんなに多くはないと思うのですけれども。問題は「無駄な」という言葉をつけるところでこの問題が出てくるわけですね。そこのところをやっぱり我々がどこがどういうふうな問題なのか、これを検討すると、しっかりとこれをつかまえるということが大事なのだろうというふうに思っているわけですね。

それから、次は無駄ということが生じている原因はどこにあるのだろうかというふうに考えてみますと、公共事業の実施の主体である政府というのは費用と、それからそこから得られる便益という言葉があるのだけれども、比較分析をするという仕組みそのものが徹底していなかったということがあろうかと思うのです。これがどこから来ているかということは、今は詳しく言いませんけれども、事業を開始するに当たって必要なコストの試算はするのだけれども、公共事業をすることが第一目標であるというふうになった場合にどういうふうになるかという、これは反対を避けるためにどういう方法をとるか、指摘したかという、私はやっぱり費用の見積というの是最初に評価するということにして、反対意見を避けるというふうなのが背景にあるのですよね。

さらに、公共事業のようなものが外部性と呼ばれる特殊な問題を抱えておるので、経済学の分野では便益上、あらかじめ見積もるということが難しいところもあるのです。では、そのあたりどういうことですかということ、正確な費用と便益の比較分析はできないと、なかなかできないところでどういうことが生じてくるか。それをいいことに便益を過大に見積もって公共事業実施に有利に働くような、そういう面があったのです。こういうことはやっぱり背景にあるような気がするのです。

ただ、最近は問題意識が高まってきていて、そんなにそんなに政府の言うこと、公が言うようなことについて、そうかというふうに皆々思うようになってきているわけではないので、厳しくなっているところもあると思うのです。依然としてこういう傾向が公と、それから一般住民の間ではなかなか差が縮まっていないということもこういう公共事業の問題点がなかなか解決できない点もあるのではないかと。だから、政府自体の問題ももちろんあるのだけれども、やっぱり住民の意識というか、監視していくという体制自体というのも現実的には非常に大きな問題意識としてあって、今までさまざま多大な費用を掛けて、そして公共事業等をやられているのだけれども、それがこうなった原因というのは政府だけの責任ではないこと、我々の監視の体制というのはしっかりしなければダメなのだというようなことでも一面ではあるのだと思います。でも、これは最大の責任ではありませんよ、やっぱりこれはそういうことで非常に大事な視点でもあるのだと思うのです。

それで、ダムは何のためにつくられるか、というようなことであると、これはもうおわかりであるので、その目的は水が必要であるとか、電気が足りないとかということではなくて、これはどうしても公共事業にかかわる利権の問題ということをやったりどうしても係わらざるを得ない、これを問題視せざるを得ないのだというふうに思うのです。

それから、あとダムにかかわる手段はないのだろうか。多目的ダムというふうに言われることで、これが矛盾していることは皆さんよくわかっていることなので、喝水、発電のためにダムというので水を貯めなければならないし、洪水に備えるためにはダムを空にしなければならないという両方の目的を達するということはできない、そういう矛盾があるということでもあるわけです。

そのほか多目的ダムのさまざまな問題については、皆さんよくご存じだと思うの

だけれども、そこからどういう問題が出てきているか、そこを覆い隠すような、その辺がなくはない。

それで、私は無駄な公共事業というふうなこと、これはあるわけなのだけれども、税金をどんなふうな使い方をすべきだというふうになりますと、今大震災という、それから原発の事故が起こって大変苦しんでいる方がいらっしゃるわけですね。そういうことでの金の使い道ということはもう十分に考えて、無駄なこういう…、ダムもそうなのだけれども、これをやめようではないかということをご提案したいというふうに思います。

○住民（４番）

十文字町に住んでおります●●です。82歳と9カ月になりました。メモもちょっと私の不始末で準備したものがここで読めない状況で本当に申しわけないし、それからご検討いただいたこれまでの報告をお聞きしていると非常に大変詳細にわたって検討なされているわけですが、それを十分に、当然ですので、読まないままで申し上げることで本当に申しわけないと思います。ただ、こういう事業というものは骨があるわけですね。出発に当たっての理念というのですよね。理念が今回のそのどこかに書いてあると思うのですが、ちょっと私すぐには見つけられないので、さっきお話ありました平成21年の雄物川流域水系でしょうか、管理計画素案ですか、その中で見ましたら、冒頭に大変立派な内容の、大体3つの項目が表記されておりました。これは今の新しい河川法にほぼ精神的にも従った、私としても自分で十分な検討もなく本当に申し上げて、悪いのですけれども、よくできていると、大切なご提案だと思います。

問題は、その理念が実際の今現在の詳細な計画にどのように整合性を持って行われているか、この点について私は若干の私なりの本当に粗末な意見を申し上げます。

それで、まず川、これこちらですと前につくられた雄物川で、湯沢工事事務所で管理していらっしゃるのが大体この赤い線の範囲、玉川の部分、こっちはもうあります、半分ね。それで、私のほうの湯沢工事事務所で全部ここら辺までみんなやっちゃっているのですが、成瀬川、皆瀬川、役内川、この部分についての、この辺の成瀬ダムにかかわる部分について考えてみたいわけですね。大変広い部分です

ね。

全体としては4千いらかあるのですが、そのうちの平地部分というのが1,107平方キロと言ったかな、何かその程度あるそうです。それで、その平地の部分、そこがどのように利用されているのか、これも先ほどの管理計画の中に細かなパーセンテージが一応概数ですけども、出ております。それを見ますと、大体何%だったかな、そのメモをここに持ってこなくて申しわけないのですが、70%は軽く超えていたような気がします。もっと大きかったかな。

裸地ね、それから道路についてはありませんでした。それから、田畑、耕地ですね、それから何かありましたね、もう一つ、荒地か。いろいろあります。そういうものを足して、そういうところも含めての平地なのです。その平地の中で、国交省が管理なさっているのはまず今日のお話を聞いても、非常に小さな狭い部分です、河床ですね。現在、堤防ができていないところもありますが、ほぼ川と称して流れている川のところです、河床。その部分の面積というのは非常に小さいです。

それで、この大部分は誰が使っているかといいますと農水省とか、それから経済産業省とか、そういうところの人たちが使っているわけです。この人たちが非常に恣意的な使い方をしているのです。物すごい無駄遣いをしている。それを例えば私はここに大正2年、ここの地域で一番早い陸地測量部の地図を持ってきましたけれども、それ見ますと、例えば岩井川、あそこは岩崎のところに耕地整理された田んぼがちょっと見えます。それから、十文字のところ、当時の田んぼ、農水省にかかわっていますが、田んぼを使った人たちは、それをきちんと反復水を使って丁寧に使っている、そういう姿が地図から読めます。それから船、かつては船が500石ぐらいの船が角間のあたりまで来たのですよ、今それ来ますか。それから、さらにそこで積みかえて500石ですよ。

とにかくその水どこへ行ってしまったのか。それは農水省の言っている土地改良事業、田んぼ、耕地に行っているわけですが、その水がホームページで言うように洪水調節にちゃんと行われているかというところではないのです。これは構造的にそういう構造になっているのです。だから、国交省が幾ら逆立ちしたって次々にそういう無駄遣い、これは厚生省の水道についても同じです。それから、土地改良区の仕事で言いますと年々地下水位が下がっている。その原因は大正2年の農家が使

った耕地における水の利用と全く違う、当時は大変無駄遣いしないで丁寧に使っている、それが見えます。今は一直線に走る無駄遣い構造になっている。こういうものをどんどん、どんどん国交省ではのまされて、そしてどんどん、どんどんそれをまた新しい事業としてつくっていく。でも、天から降ってくる水は決まっています、毎年。今年みたいに殆ど降らない年もある、ここら辺ね。それから、大量に降る年もあります。決まっています。その決まっている範囲内で、ある場合はいくらダムをつくったって制御できないし、ある場合はいくらダムをつくったって貯まらない。水の流れもそうなのです。これ地球、それからこの地域、その自然、そしてそれを理念としてはお互いの未来の世代に対して調和なる量と、それをうたっている、それをもう一度ここでご検討いただいたかもしれないけれども、きちんとやっていただきたいと、そういうことです。

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を聴く場

日 時：平成24年10月27日（土）10:00～11:10

場 所：大仙市仙北ふれあい文化センター1階 談話室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

おはようございます。私は、農家の主婦として、今、毎日田んぼや畑の作業をして頑張っております。5分間という短い時間ですので、早速意見を述べさせていただきます。

私の近所の農家の母さん達と話を毎日しているわけですが、農家の母さん達は異口同音に「成瀬ダム、そんなもの要らねえ」と、もうそれで終わってしまいます。

ことしも大変な猛暑でした。でも、米はカメムシや割れる米とか、そういう異常な米もありますけれども、秋の実りを迎えてちゃんと米を収穫することができました。

農家の母さん達の話によれば、用水路に水がとうとうと流れてくる時期に上流のほうの用水路から水があふれ出ている、「あれ、もったいないよな。下流のほうの田んぼで稲をつくっている人たちに申しわけねえよな」と、そういう話をしております。水は足りています。農家は、今この成瀬ダムのことを本当に問題視してないです。本当に関心が薄いです。それが1つです。

2つ目です。ダムは洪水を防ぐということで、成瀬ダムの目的の中に書いてありますけれども、私が今住んでいるところはもう先祖代々ずっと洪水が繰り返し、繰り返し起こってきた地域です。でも、その洪水のおかげで川からのいろいろな堆積物がその土地の豊かさをもたらしてくれました。今はとても肥沃な大地としてそこで米や野菜をつくっております。ですから、成瀬ダムをつくることによって、洪水を防ぐのではなくて、洪水が今までも起こってきた地域を遊水地としてきちんと後世に引き継いでいけるような、そういう土地にしていくことが大事だと私は思います。

それから、ダムの水を水道用水にという、そういう目的があるようではありますけれども、日本全国のダムに貯められた水はもう腐っております。生きている水ではありません。山の奥のほうの清流の中には魚がたくさん生きて泳いでいますけれども、皆瀬川のほうに皆瀬ダムができた以降は、皆瀬川で魚釣りをしていた漁師さんたちもダムができてから川の水が濁って魚が本当にいなくなると、いる魚も小さい魚しかないということで嘆いております。

私たち人間がダムに貯められた水を飲んで、それを水道用水として自分たちの生活の中で使うためには塩素で消毒したお水をいただくわけですがけれども、今は浄水器というものが発達してきておりまして、塩素を取り除いて自分たちの生活の中に取り入れようとしている人達が多く見られます。決して成瀬ダムの水は私達の生活を潤す水とはなっていません。流れる水、山から染みてきているああいう水こそおいしい水だというふうに私は考えます。

それから、流水の正常な機能の維持ということで、皆瀬川における流水の正常な機能の維持と増進を図るという目的がありますけれども、これについては皆瀬川の川を見ていただければわかりますが、堆積物が多くて川の真ん中に木が生えてしまったりしております。そういった皆瀬川全域をきちんと整備するような、そういう活動がきちんとなされていない現状で成瀬ダムの水がこういう、正常な川の流水の維持につながるというふうにはなかなか考えられないように私は思います。今現在あるものをきちんと使うという方向を考えていきたいなというふうに思います。

それから、成瀬ダムを利用して水力発電を行うということが掲げられております。昨日も岩手県と宮城県で地震がありました。私は、数年前岩手・宮城内陸地震のときに東成瀬村の山々が相当被害を被ったところを見てきております。そういったこともありまして、東成瀬村のあの地域は非常に昔も地震があった地域です。大きい岩が村の中に祀られている場所がありますけれども、去年の3.11の東日本大震災の後、福島で原発事故があったわけです。数日前の報道にもありましたが、12万年前、13万年前、いや、40万年前以降の活断層のあるところには原発施設をつくらない、そういう方向を考えているというふうに新聞報道でもありました。私はダムをつくるときにもきちんとそういうことを踏まえた形で設置をしていくことが必要だというふうに思います。

それと去年の3.11東日本大震災、そして福島原発事故が起こってしまって、ま

だ原発事故の収束を見ておりません。まだまだ放射能が日本全国にばらまかれている状況の今、私たちはせめて日本の国土を残すことを考えていかなければいけないというふうに思います。農家の母さん達が水はもう十分足りている、成瀬ダムは要らない、必要ないということを、ぜひ今この時期にもう一度再認識して、もっと視点を変えて、成瀬ダムではなくて、もっと別の方向を探っていく、そういう河川行政というものを私は望みたいと思います。

今日、私は生活の場で感じていることを本当に率直な気持ちで述べさせていただきました。ありがとうございました。

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又は メールアドレス		[REDACTED]				
④職業		ナシ	⑤年齢	82	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は 200 文字以内で記載してください。(一つのご意見が 200 文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200 字以内)も記載してください。)				
頁	行	<p>現在の検討内容は 具体的な戦略 策術に相当するものが占めているように思われます。その重要さは認識しておりますが、事業の根幹を成すその「理念」、 又はその理念から発するべき 治水・利水 etc. 何々の施設^{計画}との整合性は どう認識されるべきか この辺りを平素より 目下の 具体的計画像の検討を 共にみていくことが、</p> <p>(詳細別紙) 2枚</p>				

別記 ([REDACTED])

成瀬ダム建設事業の理念は何か。理念あつての事業計画である。そこに計画の根本的な命題がある。そこから個々の目的と自然流量確保などでの具体計画との整合性はどうか、現状に木を見て森を見ずの兆候はないのか。ここでは現在審議中の「雄物川水系河川整備計画・国管理区間素案」(H21年版、以下整備計画案と略す)を一つの基底としながら、以下その検証を進めたい。

「整備計画案*1」はその文頭に於いて三つの理念を併記し、そのおしまいに「雄物川が基軸となって形成された歴史・文化や自然環境が調和した人と川とがふれあえる場の整備保全に努め、そこを拠点として地域の人々の交流や参加や連携を促すことにより、地域の活性化を目指します」とある。私見としてもこの内容は河川管理を今日的観点からもよく検討された内容であり、私もまたそこをベースとして各論を手短に展開させていただく。

まず横手盆地を流下する自然水—表流水・伏流水(資源としての水、治水対象としての水)の総量に注目します。かつて幕藩時代の豊富な雄物川の河川水により、河口の土崎港から角間川港(現大曲市)まで1000~1200俵の米を積んだ大船が往来し*2、年々遡上する鮭をめぐっての川漁集落も発達していた。この時代をふり返り、現在の河川床の自然流量を確認するとき、今日の水問題の対応策についての冷静かつ明快な将来的展望が見えてきます。これらの自然水は天から与えられる降水の総量そのものであり、それよりも多くも少なくもありません。往来史*2は人々の新田開発により農業用水は不足し人々の間に抗争が起こった事実を伝えています。物資輸送の根幹であった船運を守るために雄物川本流は常時船道6~7間明けておくこと(自然流量確保)が義務付けられ、灌漑用水確保の川止めは制約されていたといえます。千俵も米を山積みした河床の流量は何処へ消えてしまったのか、人々は時代の流れと訴えますが、それは農業利水という人々のニーズに飲み込まれてしまった、今日の自然流量減少のほとんどは農業利水に飲み込まれてしまったということを指摘しておく必要があります。

私の母・1898年生まれの実家は旧田根森村であり子どもの頃若勢・ワカゼが10人ほど同居していたといえます。ほとんどが畑作のため稲作より人手が欲しかったことを示します。明治中期にいたっても多くの河川氾濫原の跡が森林として残り、夕刻には孤の親子が並んで西開きの林の下を歩くのが見られたと聞いています。前回の昭和40年代・皆瀬ダム開発に伴う土地改良事業の際も、事業開始以後にも新田開発の強引な申請などあり、水のかかりにくい高台を含めて新田面積は拡大されたと、田根森村土地改良代表役員・故 [REDACTED] 氏の私に対する証言もあります。今日の農業事業の世界的展望を俯瞰すると、現知事佐竹氏も訴えるように適地適作、それぞれの地形や土質にあった作目を選択する自由と所得保障を農業者に与えることも一つの選択肢として検討されるべきでしょう。

今年も9月5日あたりを境に用水の枝線水路の水はシャツとアウトされました。農水省の今回の土地改良事業計画書では田畑の輪作による作目変換をうたっていますが、秋野菜苗の植え付け時期と当地の歴史的旱魃に農家は泣くばかりでした。 *1、*2 佐藤清一郎 雄物川往来史 参照

重ねていいますが、これらのこれらの自然水は全て一元的な存在です。横手盆地は何万年もの雄物川の氾濫によって形成発達したものであり*3、今日の伏流水は水田に水を供給されることによりその地下水位を上昇させています。春の融雪により水田の積雪は地下水を供給し、5月の利水開始とあいまってその豊富さを増します。そして夏場を経て落水の始まりとともに次第にその水位を下げるという周年変化を反復しております。厳寒の2月中旬その低下はクライマックスに至り、十文字地区のような伏流水利用の水道事業関連職員は、恒例のように声をからして利用者の節水協力への訴えて地域を走り回ります。かつて盆地の処々に低湿地や河川氾濫による堆積地形と自然林など散在した景観は農地効率利用の農業土木等で霧散し、国の政策ともあいまって稲作単一利用の用水路は、冬季乾田化という水管理を中心に地下水位の季節変動をより厳しいものにしました。放置されたままの消雪汲み上げなど、新しい車社会による水需要も加算されてスパイラルな地下水減少がつついております。 *3 斎藤實則 雄物川流路変遷・湯沢河川国道事務所

かつての旧東京市街地は当時の冷暖房への地下水消費で水位は大幅に低下し、地盤沈下など多くの問題を生起させましたが、その利用規制条例とその運用によって、逆に戦前以上にまで水位は上昇したという事例もあります。

近隣の旧六郷町の農地の水源涵養事業は今日では「水のある風景」として観光地としても名をはせるようになりました。

自然水は全て一元的な存在ということは、農地への水を増大させるにつれて、いわゆる国土交通省の管理する河床を流下する水の量を急速に減少させ、一方かつての河川による物資移動の生活や川漁を壊滅の方向へと導きました。だとすれば国交省の負担すべき治水対策も、盆地上流や中流域ではより軽減するはずでありましたが、現実にはどのように展開しているのでしょうか。農地が水を飲んでしまえば、農業用水の一気に放流される扇底部河川狭窄地はともかく、河川の洪水は減少する(リスク・アンド・ベネフィット)はずであるのにそうなっているのでしょうか。農水省HPにも農地の洪水調節機能を謳いますが現実絵空事となっているという事実ではないのか。

なぜ農地の洪水調節機能は絵空事となるのか、それは現在の農業用水路の設計思想(用配水路の隣接分離)や補助制度(枝線は私権に属するから補助できない等)の結果として、水の非常な無駄遣い構造と運用になっていることにあります。その結果は、洪水調節どころかより増大させる施設として国交省守備力への負担を増大させている現実があります。

大曲衝水路によって旧市内の水害減少と同時に水は神宮寺地域など下流部への負担を増加させる現象の横手盆地の大部分からの鉄砲水様侵入者が現れたという事態も予想されます。

一元的な自然の水の制御と利用について、その一部の管理担当部局である国交省だけでその事業検討をさせられたのでは、結局はこの計画も更なる対応の混沌に巻き込まれるだけのことではと不安です。農水省・厚生労働省(上下水道など地下水管理も含めて)などと部局を超えたプロジェクトとし、それに本当の意味での利益者である地域の人々を交えてこのダム建設事業の近未来像、そしてソフトランディングされるべきエネルギー・資源問題の中での21世紀的計画へという変貌発展の見通しを持つべきなのではないでしょうか。

結びの一例として地下水の乱消費を例示します。それは文化生活の必然性という認識が一般化されておりますが、自然水は天から与えられる有限の存在です。ダムを造れば法律・水利権によって水は確保されるという循環は、ダムの水も天からの贈り物であってそれ以上でもなければ以下でもありません。取支ゼロで均衡すべき資源という観点から完全に抜け落ちて、水利権という空手形だけが問題の解決策と化した姿は、正に経済界の金融工学の破綻(リーマンショック)と近似してきています。貯めようとしても貯まらない、貯めようとした量をはるかに多い降水のあるのが自然の水であります。そして天からの恵は局所に偏っているという微気象のデータが此処ではどれほどの検討を経たのか示されることを期待します。

戦後初頭に秋田を襲った二つの洪水をめぐって、16才で体験した横手盆地扇状部田根森村での記憶とそれに保つ証言、そして、戦前から農業気象観測者として名を残していた皆瀬村川向の[]氏の記録―皆瀬ダムサイトでは災害当日前後は大きな降水値を記録していなかったという事実など、数年前に一人して国交省を訪ねて複数キャノアの皆さんとの90分近い話し合いで共感あったテーマ、今日の集積された気象データ・とくに微気象の事実の勘案など、ハードより今日の治水ストックの運用にかかわる解決策も豊富であり、ま手ごろなものから試されるなど、急迫した日本の財政状況をも勘案しながらの検討の展開を望みます。

なお、当地の最初の5万分の一地図は大正5年発行されたものと記憶しますが、それを見ると非常に豊かな当時の生活と姿が見えてきます。彼らの知見を今日的に如何に生かすか、これまでの成長一辺倒路線はグローバルな破綻の延長上において、私たち個々の理性がいまこそ求められているのではないのでしょうか。

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]				
④職業		なし	⑤年齢	73才	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は 200 文字以内で記載してください。(一つのご意見が 200 文字を超える場合は、別途自由形式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200 字以内)も記載してください。)				
頁	行	<p>成瀬ダム計画は不適地であり貯水容量が極めて少ない利水。治水効果は期待出来ないと考えます。その例を玉川ダムと比較すれば歴然といたします。ダム本体の規模が大ききにもおかしき。ダムの機能を決定付ける湛水面積は玉川ダムより小さい。</p> <p>成瀬ダムの建設目的が曖昧であり農業用水の確保目的の下流部の平鹿平野で水不足を懸念いたします。</p> <p>今年6月の治水はダムの建設より堤防の整備が急務ではないかと金を使わずに考えて下さい。4.職員からのご意見です。</p>				

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]				
④職業		無職	⑤年齢	67	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は 200 文字以内で記載してください。(一つのご意見が 200 文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200 字以内)も記載してください。)				
頁	行					
R.4 400 5 R.4 404		<p>洪水調節について</p> <p>成瀬ダムは最上流部の限定された狭い集水域に降った雨による洪水を調節するだけであるから、治水効果は小さく且つ不確実である。これまで、ダムが治水効果を予定通りに発揮した例は少なく、近年はむしろダムによる水害の方が懸念されている。</p> <p>自然と人間生活への広範なマイナス面を考えれば、ダムによる治水は方向転換すべき時にきている。遊水地や堤防補強等で対応し、後の世代に清流の川のある美しく豊かな日本を残してやりたい。</p>				

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
 に対する意見聴取について……

①氏名（フリガナ）		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]				
④職業		団体職員	⑤年齢	47	⑥性別	男
意見談当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨（200字以内）も記載してください。）				
4-405	6	<p>昨年に続き、今年の7月から8月にかけて農業用水の水不足の状況でした。 9月以降も今年は雄物川水系の河川水量が少ないために防火用水等の生活用水が水路に流れていない状況が続きました。 また、これから冬をむかえるにあたり流雪溝に水が流れるかが心配されます。 地域住民の生活を守るために、安定した水量を確保するには成瀬ダムが必要です。</p>				

(意見提出様式)

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[Redacted]				
②住所	[Redacted]				
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④職業	無職	⑤年齢	66	⑥性別	女
意見該当箇所	①ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由形式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
P.4 415 5 P.4 419		<p>添「流水の正常な機能の維持」について</p> <p>川の生態系や機能のトータルな維持には洪水も濁水も必要。従って、「流水の正常な機能の維持」というのは常時一定の目標(2.8m³/s)を確保することによってはなし得ないと捉えるべき。</p> <p>洪水は森のミネラルを下流域の田畑や海にもたらし恵みともなる。濁水は魚の採餌環境を豊かにするのに欠かせない要因の一つ。ダムは海岸線の浸食や又、水質の悪化で米の等級を下げ、収入を半減させる(二風谷ダム等)。ダムは百害あって一利なし。</p>			

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又は メールアドレス		[REDACTED]				
④職業		団体職員	⑤年齢	47	⑥性別	女
意見該当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。）				
頁	行					
4-405	20	成瀬ダム建設事業に賛成です。コストや実現性を考える 早期完成を望みます。 秋田市長等構成員の方々の意見を見るも、治水対策としての 役割も必要なダムではないかと思えます。				
4-406	2~7					
4-406	7p.5 6~7					

(意見提出様式)

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(案)」
に対する意見聴取について

① 名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又は メールアドレス		[REDACTED]				
④職業		団体職員	⑤年齢	53	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由 形式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行	今年の干ばつはひどいものであった。特に農家にとっては、用水の確保に大変難儀を した日々でした。 成瀬ダム建設事業については、コスト、実現性、持続性等、ほかの代替案より最も有 利と思われ、早期のダム本体建設、完成を望むものである。 3年以上の建設休止は、非常にムダな時間であったと思う。				

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	団体職員	⑤年齢	54	⑥性別	男
意見担当箇所	①ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行	<p>あらゆる方面から検討に検討を重ねて着工したのはずいぶん成瀬ダムです。 今回の検証内容については、何れも「いいねい」でわかりやすく説明されており、その結果はもっともだと思えます。 ですからもうこれ以上ダムの完成を繰延べするのはやめてもらいたい。</p> <p>成瀬ダムの完成を待望する多くの住民のために、一日でも早く本件に着手していただく様、切にお願いいたします。</p>			

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 滝御中

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]						
②住所		[REDACTED]						
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]						
④職業		兼業農家		⑤年齢	50		⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)						
頁	行							
4-405	11	兼業農家なので農作業が土、日と合うので、成瀬ダムが出来ると、待て望んであります。末端地区に水田があり特に夏場の湯水期はあがり上げ状態、またカドミも検出しますので、用水不足に難儀しており、早く成瀬ダムを作らしてほしい。						
4-405	20	今まで金を掛けたのだから、費用の少ない成瀬ダム建設に向って進んでくべきと思え。						
4-407	13	住んでる場所が堤防付近である為、大雨になると、堤防近くに川の水位が上がり、流木が負えるので、不安で寝られない。成瀬ダムが出来ると、成瀬川の川の水位を抑えられると思う。また平時は西風を30P-1L稼働しているが、今年は大雨により2年連続で出荷出来なかった。そのため労働力がムダになり格闘している。『下水取水』については、年々下りてくる水田、飲水に影響すると思われる反対だ。						
4-409	8	今は川砂利採取してないので、毎々川底が上がり、大雨時には土が出てくるので、浸水被害等がある。成瀬ダムがあれば、土砂の流出を、取水口に抑えられる効果が期待できると思われる。						
4-406	10	発電にしては水か? 平時、発電量が一定で、災害時にも、心配が無く、生活場、冬期間の降雪は豪雪地帯で、冷たい雪を、利水、発電に対しては川の資源となり活用できると思え。						

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]					
②住所		[REDACTED]					
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]					
④職業		団休職員		⑤年齢	35	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は 200 文字以内で記載してください。(一つのご意見が 200 文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200 字以内)も記載してください。)					
頁	行						
4-405 ~408		<p>「成瀬ダム案」はコスト面、実現性に於いて、事業用地関係者と合意形成が既にされているなど、他の3案より優良である。</p> <p>地域社会・環境の面でも、「成瀬ダム案」の環境影響は現状維持されるようになっており、「皆瀬ダム嵩上げ案」は上流の『小安峽』が水没するなどの影響が考えられ、地域振興を阻害する案はよろしくない。「地下水取水案」は安定的な取水出来るかが不確定であり、地盤沈下への懸念は無視できない。</p> <p>以上より、治水対策としても早期の成瀬ダム完成を望む。</p>					

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	身 務 員	⑤年齢	56歳	⑥性別	女 性
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨（200字以内）も記載してください。）				
頁	行				
4	405	<p>今年度のような異常気象の中で、農家の人たちが水不足に苦勞している姿をみていると、安定したかんがい用水を供給できる成瀬ダムの早期着工を望みます。</p> <p>コスト面、また実現性の面でも用地取得がほぼ完了している「成瀬ダム案」に賛成です。</p> <p>地下取水案については、地盤沈下や、貴田の面においても懸念される点が多いと思います。</p> <p>成瀬ダム案は、治水対策の他、水道発電等様々な目的も予定されているようなので、多いに期待しております。</p>			

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[Redacted]				
②住所	[Redacted]				
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④職業	なし	⑤年齢	73才	⑥性別	男
意見票当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由 形式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>①)お仕事にどう様です。横手市栄館にて行われ ました聴取会に参加した者です。始めに聞いた事が判 貴方の机の並べ方に疑問を持ちました。記録班、速記 班等々及ぶやに思いましたか。作業の並べ方に違和感を 持った。聴取会等々ではいともさうようにしているのですか。</p> <p>②)残事業費、約128億円とあります。完成総額約 10年としまして、年約120億円必要になる。計画と 現実的な工事工期又費用等々には大きな乖離 があるのではないですか。</p> <p>③)洪水、料金、流水の正常な機能---等々おいて 成瀬ダムの問題は問題解決の様にご答えては すか。現実的、今後の問題を解決する方法について 努力されていくように思えます。洪水対策は堤防や 計画地域住民の声、又水道等の要望、及び現実、料 水も参画者に必要数量は普請で対応は現実的では ないと思えます。以上</p>			

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）		[REDACTED]					
②住所		[REDACTED]					
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]					
④職業		葦筆器家	⑤年齢	47	⑥性別	男	
意見該当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。）					
4-408	22	<p>水系の下流で末端で区で利用しているの、夏の中干し後の水が、臭いになり貯水機能と調節機能の多いのがダムであり、ホムラウトに地域に多種に渡り、蓄積度が高いように思います。</p> <p>女字を消去法と比較していくと、「成瀬ダムかさ上げ案」については、小気味への影響と建設年度が遠いものに、かさ上げしていくのに不安を感じます。</p> <p>次に「地下取水案」については、目に見えぬ事が何れも安心感を握らない、維持管理に大変だと思っております。巧み人地環境下も、マイク要因で残りの2案については、「成瀬ダム」における新規水カ発露が予定されているので、東日本大震災以降、原発以外の新エネルギー確保が重要視されている事で「利水専用ダム案」をリードしていると思われ、「成瀬ダム案」が残ると思っております。</p> <p>マイク要素は女字とも、そのおれあると思っておりますが、将来へ前向きに「成瀬ダム」については、よりプラス効果が多いものに期待していくものだと考えます。</p> <p>以上、素人発想ですが「成瀬ダム」を望んでおります。</p>					

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]					
②住所	[REDACTED]					
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]					
④職業	団体職員	⑤年齢	3	⑥性別	男	
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)					
頁	行	<p>報告書は、4案及びその評価軸で検証しているが、私は完成までに要する費用が少なく、完成までの期間が最も短い「成瀬ダム案」が一番良いと思う。</p> <p>今夏の猛暑により、河川から安定水量取水が不足し、下流部でのばりず、上流部においても水路の水が通りが溜りに影響を与えた。上流部ではカド問題があるため、JAにより湛水管理が指導されているが、今夏の状態では自費で地下水ポンプを使用している。また、昨今の異常気象により、ゲリラ豪雨が発生すると河川が一気に増水し、水路の水が河川に溢れ、宅地や農地が湛水するケースが毎年起きている。</p> <p>治水・利水の両方を早期に解決する必要があるので、ぜひとも成瀬ダムを建設してほしい。</p>				

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	団体職員	⑤年齢	58才	⑥性別	女
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨（200字以内）も記載してください。）				
頁	行				
406	25	<p>昨今の異常気象は、5月豪雨による河川流域の洪水等被害や夏場の湯水による農作物の品質の低下、収穫量減少など、地域社会及び農業関係者に及ぼす被害は甚大と見られます。</p> <p>水に対する調整機能が乏しく発揮されない事には社会生活を営む上で不安があります。</p> <p>何より望むのは水の治水対策並みに圃場における安定供給を最短期間で実現と完備してほしいことです。</p> <p>何れにしても成瀬ダムであるからダムの早期完成を期します。</p>			

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	同僚職員	⑤年齢	27	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨（200字以内）も記載してください。）				
頁	行	<p>・成瀬ダム建設についての意見ですが、一般家として、建設促進を求める。農家の立ち回りのこと、柳川流域の住民の生命や財産を守り、安全安心な生活の基盤が築ける様子を、農家中心に据えた、社会経済の構築の軸にも成瀬ダム建設を、一日も早く完成に向けて、着工してもらいたいものです。</p>			

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名（フリガナ）	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	団体職員	⑤年齢	25	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。）				
頁	行	<p>まず、成瀬ダムの事業再開を早期に望む。 いろいろなダムの代換案があるが現実的に見て当初より成瀬ダム案が妥当であるのは明白であると思う。 近年のゲリラ豪雨、濁水等の自然災害において、成瀬ダムの有効性は一定の効果が期待できると思う。 もとより一度着手してから検討することの意味がわからない。 ここまでストップしている時間はムダであると思う。</p>			

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

① 名(フリガナ)		[REDACTED]			
②住所		[REDACTED]			
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]			
④職業		⑤年齢		⑥性別	
意見該当箇所		⑦ご意見は 200 文字以内で記載してください。(一つのご意見が 200 文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)			
頁	行				
		<p>当土地改良区管内は、今年もかんがい期に干天続きで必要水量が確保できず、不足分を少しでも補うため膨大な電気料金を支払ってまで揚水機を運転し営農を行ってきました。農家経済や改良区の財政にとってこの電気料負担は、毎年のように重くのしかかっているのが現状です。従来から農家所得向上に国を挙げて取り組んでいながら、逆行するこのような事態はできるだけ早く解消しなければなりません。</p> <p>加えて非かんがい期は、管内水路の維持用水として取水許可をいただいております用水が、河川に一定流量が無いため相当期間、取水できないこととなり地域住民から生活雑排水が滞留し悪臭がする等の苦情や、万が一の防火用水が無いなど心配する声がたくさん寄せられました。</p> <p>かんがい用水はもちろんのこと年間を通し、地域生活環境用水として安定した水を多くの住民が求めています。</p> <p>従って成瀬ダムは絶対に必要であります。</p> <p>十分な検証・検討がおこなわれ結論として出された今回の評価結果に従って、これ以上の時間を費やすことなく成瀬ダム本体着工を決断され、早期に完成することを強く願っております。</p>			

(意見提出様式)

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又は メールアドレス		[REDACTED]				
④職業		無職	⑤年齢	65	⑥性別	男
意見該当箇所		⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由 様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください)				
頁	行	治水について(別紙)				

「成瀬ダム」に洪水調節の役目を課すのは無理があります。ご存じの通り、成瀬ダムの集水面積は、雄物川流域面積のわずか 1.7%しかありません。試算では治水寄与率を最大 4.7%としています。が、どのような計算をすればこのような数字が出るのか大きな疑問です。最大で 4.7%ではあまりにも小さい数字です。ダムの下流には 広大な奥羽山系の山々、沢、川が存在します。

4-400ページ ○ 安全度 後半に、段階的にどのように安全度が確保されるか・・・

中流部で進めてきた段階的な改修工事や中流部の一部無堤箇所築堤がおおむね完了しとあります。

では平成15年から平成20年までと期間を明示し、110億円の事業費で計画された「雄物川中流部緊急対策事業」はどのような経過を見たのでしょうか？

用地の買収は？ 関係する家屋123戸の移転は何戸進んだのでしょうか？ 雄物川中流地区は約20キロにわたり無堤であるためとありますが、計画の新規築堤10.2キロのうち何キロ完成したのでしょうか？

「緊急対策事業」が計画通りに完成していれば、平成22年一昨年6月24・25日の水害はかなりの軽減をみたはずで。

上流には、玉川ダム・銀畑ダム・南外ダム・大松川ダム・皆瀬ダム・・・大小合わせるとかなりのダムがあるのです。ダムでは洪水が防がれないのが証明された水害です。仮に「成瀬ダム」ができていたとしても、あの水害にどれだけの抑制効果があったのでしょうか？

玉川との合流点から下流 特に東北地方整備局でも認識されている通り、支流土買川・淀川合流点付近は水害の多発地帯・常襲地帯です。「緊急対策事業」が策定された区間を含めてその上流・下流部分の築堤や河道掘削など河川改修を急ぐべきであり、まさに緊急の対策が必要です。流域の住民は雨が降るたびに洪水の危機に晒され、おびえているのです。

「成瀬ダム」の代替案として考えられた、雄物川全川にわたって築堤するとか、全川にわたって河道掘削をするとか、膨大な費用を要する工事をするという話ではありません。

また10年後とか20年後といった話ではないのです。近年経験する降雨は局地的であったりゲリラ的であったり、過去のデータが参考にならないような降雨が多くなっています。流域住民の不安を考えると一刻も早く完成させるべきであり、待ったなしの状況です。

「成瀬ダム」は国土交通省の説明資料によりますと、何の障害も無く、予算も予定通り下りると仮定して、完成まで12年の歳月を要し、まだ国交省の試算でこれから1,238億円のお金がかかります。しかし東日本大震災の復興や国の財政事情により「成瀬ダム」に向けられる予算には限度があります。ちなみに昨年は19億数千万円 今年も9億数千万円でした。

このような事を考えますと、ダムの完成まではまだかなりの年数を要します。また成瀬ダム建設計画が始められてから約40年の年月が経過しています。

災害はいつやってくるかわからないのです。いまやらなければならない緊急の対策をしてください。ダム建設は即刻中止し、ダムよりも洪水常襲地帯である「雄物川中流部」の河川改修を重点的にやるべきです。

「成瀬ダム検証に関する関係住民の意見を聞くの場」の日程について一言申し上げます。東成瀬村・横手市・大仙市の3か所で開くとあります。しかも、東成瀬と横手は18:00～20:00とあり、横手会場は「栄公民館」の和室です。大仙市に至っては成瀬ダムと関係性の薄い仙北ふれあいセンターです。「関係住民の意見を聞く」といながら、いかにも多くの関係住民には来てもらいたくないものようです。パブリックコメントについても記されていますが、期間は10月5日から11月2日までとある。5日に記者発表したとしても新聞に載るのは翌日。HPだって多くの人は見ないでしょう。しかも、6、7、8日と3連休です。9月に開いた「第4回成瀬ダム検証の場」及び「学識経験者に意見を聴く場」に至っては開催のわずか3日前の告知です。公開するとは言いながら、その実多くの住民には来てもらいたくないのではないかと思います。パブリックコメントに丁寧にご回答を頂き、いろいろな案を考え検証した努力には感謝申し上げます。しかし、中には出羽丘陵にトンネルを掘るとか胆沢ダムから水を持って来るなどというほとんど実現不可能な案まであります。要するにいろいろな案を検討して見たというアリバイづくりに過ぎないかと思えます。そんな実現不可能な案を考える暇がございましたら、たとえば皆瀬ダムの7月の水の運営などについて輪呑みにするのではなく実際に検証すべきではなかったでしょうか。気象情報等により台風の襲来時期や大雨の予測は可能であり、それを基にダムの水を管理することは可能だと考えます。五十嵐横手市長は「利水の観点でいうと、灌漑用水はあり得ないと考えている」と述べています。横手市の人口が2030年(予測)、7万2千人となり、国の人口も約7千万人なるなかで、米の自由用が拡大するとは考えられません。国が財政難でお金が無い時に成瀬ダム工事に単準に計算して年に100億もお金が注ぎこめるとは思えません。まさに、将来世代に大きなつけを残すものとなるでしょう。皆瀬ダムの運用を改める方がはるかに安くつきます。今年ばかりでない湯水にみまわれました。しかし、取水制限はありましたが、給水車が出たという話は聞いておりません。今年は3ぶりの「平年作」でした。まさに、「日照りに早魃なし」の格言通りでした。

首長及びパブコメには地下水は不安定うんぬんと述べております。しかし、地下水が不安定になった原因は土地改良事業によって多くの溜め池が消滅したことと用水路を水落のしない3面コンクリートにしたことにあります。昨年水害を起こした雄物川・子吉川を見て回りましたが、本流の水位が上がったために支流の水が本流に流れ込めずに起きた内水氾濫がほとんどでした。従って洪水対策や地下水保持のための遊水地は有力な案だと考えます。八ツ場ダムにおいても利根川治水計画の策定が問題となっています。雄物川治水計画が策定されていないのはなぜでしょうか。治水計画を策定し雄物川中流域の堤防の整備が完了してしまうとダム計画の必要性が無くなるという意見がありますがむべなるかなと思えます。私が考える遊水地案は何も「渡良瀬遊水地」や「一関遊水地」のような完璧なものを考えていません。雄物川中流域のかつて氾濫原であったところを洪水時の暫定的な遊水地とするというものです。毎年洪水が起きる訳ではなく、被害を受けた時は田畑の補償すればよいです。何なら、休耕地と振り替えて遊水地とするという手もあります。

水道について述べます。最新の人口調査(2010年国勢調査)による推計ではダムが完成しているとされる2030年には、大仙・横手・湯沢市では約4分の1(13,000人)成瀬ダムの水を必要としている人口が減少するようです。大仙市(南外・刈和野・大沢郷)・横手市・湯沢市の水道計画は新しい人口予測に基づいて見なおすべきだと考えます。そして大仙市及び湯沢市の水道の普及率は100%としています。有収率を南外地区では92としておりますが、これも湯沢市などに比べると過大見積もりだと思います。湯沢市の水需給状況では「1人あたりの使用水量は増加傾向にあり」とありますが、高齢化の進行と洗濯機等に見られる節水機能の進化を考えると、予測のように増加するとは考えられません。最大取水量はいずれの地区においても過大な見積もりであります。また南外地区は集落間がはなれており、水道管・下水管の敷設及び維持管理に相当なお金がかかり水道料金が高くなると考えます。同様なことは湯沢市にもいえます。旧市街地には水道が普及しています。今後は高松地区など現在簡易水道を行っているところの上水道を検討しているものと思われれますが本管からの距離が長くて対費用効果の面から見ていかかかと思えます。やはり料金の高い水を飲むということになるかと思えます。大仙市の水道水については、玉川ダムの水の振り替えで十分であり、秋田県に水利権をつよくようきゅうすべきだともおもいます。

今問題になっているTPPIに日本が参加すると日本の農業、従って横手盆地の農業も壊滅的打撃を受けると思えます。国交省はTPPIに反対なのですか。少なくとも成瀬ダムは急ぐ必要がありません。

- (1) 成瀬ダムの検証主体が計画立案した東北整備局であり、「検討の場」が同局と、建設を強く要望してきた関係自治体による構成では、検証の結論が「成瀬ダム建設継続」となるのは火を見るよりも明らかなことです。仮に、成瀬ダムより他の代替案でよいものがあるとすれば、成瀬ダム計画の杜撰さが明らかになることとなります。そのような自己矛盾を東北地方整備局はどのようにとらえているのでしょうか。結局「成瀬ダム案が最も有利」とならざるを得ないでしょう。過去の原発行政のような身内の検証では「建設ありき」のそしりを受けるのは致し方ないことです。客観的な第三者の検証が行われるべきことを改めて主張します。
- (2) 素案では、利害関係者である東北農政局や関係自治体からの治水容量の申し出を鵜呑みしただけで、東北復興や厳しい財政運営のなかでそれらに厳しく切り込むような精査が行われるべきだったと思いますが、そうしたことが行われた形跡もなく名ばかりの検証と言われても仕方ありません。例えば、農業治水では該当地域水田の減水深が 29 mm/日まで過大に設定されていますが、ほとんどの農家が除草剤を効かせるために減水深 20 mm/日を忠実に守って水管理をしています。また、該当地域の人口については著しい人口減が予想されており、関係自治体の水道水需要予測も過大であるのに、これに対しても切り込んでいません。玉川ダムの工業用水の余剰振替についても、秋田県に対して転用を求めるなどの切り込みはなく、関係自治体への対応は全く不十分です。
- (3) 代替案の検討について、数的にはさまざまに検討されたようですが、現実的なものはあまりありませんでした。そして、そのコストについて代替案の過大仕様にもとづく計算が行われたのではないかと疑わざるを得ません。例えば、この 50 年間ぐらいの洪水を見てみると雄物川中流域の、それも流入する中小河川との合流地点に集中しており、主にそれらに的を絞った治水対策こそ求められているものです。例えば、河道掘削については雄物川全川で行うことは現時点では必ずしも必要ではなく、大仙市以北で集中的に行うべきです。遊水地案についても周囲堤の仕様は過大であり、もっと実用的で柔軟であるべきです。
- (4) 成瀬ダムの治水効果については、雄物川流域面積に対する成瀬ダム集水面積が 1.4% しかないということから極めて限定的と言わざるを得ません。しかし、素案ではその寄与率が最大 4.7% ということでお茶を濁そうとしています。むしろ、すべての洪水における寄与率を公表してその最小の値こそ問題にしなければならないのではないでしょうか。治水効果を言うならば、今日的な気象変動に対応するものとして治水の「弱い部分」に着目して対策を行うことが大切です。それは雄物川水系では中流域に集中していることは明らかです。
- (5) 流域住民の最大の関心は、ダムによる環境への影響についての検討結果でした。近隣の皆瀬ダムや大松川ダムの実態を見てきたからです。「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」の中間とりまとめでは、環境への影響の項目で
- 水環境に対してどのような影響があるか
 - 生物多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか
 - 土砂流動がどう変化し、下流河川・海岸にどのように影響するか
 - 景観、人と自然との豊かな触れ合いにどのような影響があるか
 - その他
- について検討を求めています。今回の素案では「その影響は少ないと考えられる」（素案骨子）として、ほとんど具体的定量的な検討を行っていません。コストを考えるならば、環境リスクも考慮しなければならないはず。例えば、

- 1) 洪水調節の総合評価については「環境保全措置により…」としています。これは選択取水設備を指しているのでしょうか。しかし、現実はそのような設備をもってしても下流域の濁りは解消していないということを住民は実感しています。濁度という客観的具体的な数値で「最新の設備によって濁度はこの程度まで改善される」というような評価がなされるべきではないでしょうか。
 - 2) 森林生態系保護地域につながる貴重な森林資源や溪流相の破壊についてどれだけの検討がなされたのでしょうか。
 - 3) 雄物川三十景の一つである赤滝や流域住民の信仰を集める赤滝神社は極めて貴重な自然遺産です。このような自然と景観を保全することは世界のすう勢と言えます。この価値をどのように評価したのでしょうか。
 - 4) 大震災を受けて秋田県地震被害想定調査検討委員会では「真昼山地東縁断層帯南部」や複数の活断層が連動して大きな地震が起きる可能性が言及され、専門家の間では「成瀬川断層」の存在についても指摘されています。また、建設地及び周辺では巨大な破砕帯も観測されています。ダム湖の沉筋や周辺では岩手・宮城内陸地震や東日本大震災の影響とみられる崩落が多数見られています。大震災をうけて成瀬ダムの耐震設計を見直す必要はないのでしょうか。こうしたことが充分事業等の点検で行われたのでしょうか。
- (6) ダムによって「流水の正常な維持」をはかるという発想は承服できません。東日本大震災からの教訓として、人工物で自然をコントロールできるという人間の不遜な考え方は改めるべきです。東北地方は、主に南北に縦断する脊梁山脈からの水の恵みによって育まれてきました。時には水は洪水を、また時には洪水被害をもたらしましたが、東北の豊かな生物多様性は維持されてきました。先進国アメリカでは生態系への影響を考慮してダムを撤去し始めています。そのことから真摯に学ぶべき時と思います。
- (7) 私たちは、気象観測が大幅に進歩したことを受けて、既存のダムの運用を見直し、貯水した水を効果的に利水に生かすことを提案してきました。皆瀬ダムでは7月1日までに機械的に放流してしまうことはもったいないことです。今日の気象観測網によって半世紀前とは格段に違う精度で気象予測ができるようになりました。少しずつ運用を調整していく試みを始めるべきと考えます。
- (8) 素案に対する「意見聴取」が3会場で行われ、あわせて9件の意見が述べられましたが、すべて反対意見でした。成瀬ダム建設継続を要望する意見は1件もありませんでした。それだけ必要性、緊急性が低いことの表れだと思います。東北復興を担う東北地方整備局は、成瀬ダムの緊急性の低さをきちんと「有識者会議」に報告すべきです。この国の財源は非常に限られているのですから、緊急性の低い事業のお金は復興予算に廻すべきです。

以上

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)		[REDACTED]				
②住所		[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]				
④職業		団体操員	⑤年齢	33	⑥性別	男
意見該当箇所	行	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。（一つのご意見が200文字を超える場合は、別添自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。）				
4-405- 4-408		<p>・目的別の総合評価の結果概要を見ても、「成瀬ダム案」が最も良いのではないかと。何故なら、今、一番問題とされているのが治水対策だと思う。最近のゲリラ豪雨で床上、床下浸水、農業被害が多発しているのが現状であり、夏場に雄物川が氾濫すると、ある一定の場所よりも水位が下がれば暫定の取水許可があり、年に数回取水できない場合が出ていて農家及び地域住民等大変困っている。コスト的・実現性では完成までに要する費用、事業期間が最も小さく、最も短い、又目標である成瀬・皆瀬頭首工から必要な水量を取水することが可能となる。これら全体を含めて思うことは、地域住民・農家の不安を解消し、安全安心な暮らしを確保する為、成瀬ダムの早期着工・完成を望んでいる。</p>				

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	自営業	⑤年齢	63	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください)				
頁	行				
		<p>意見聴取会に出席して、こんな会が「意見聴取会」とは思いませんでした、多量の資料が初まじ10~20分前に出て来て、読んで理解が追いつかずはすかたい。せめて資料を終了後回収ではなく、持ち帰れる事くらいはどうか？ それには右にか「支障」があるのでしょうか？ 資料代が高いのなら、なんで「上質」版にしているのか？ 数人の上級公務員に特に紙を使用していました。一方的な意見を聴いて、その後充分な時間をかけて報告をすまう、提出した資料(素案)に対しても1~2ヶ月の検討期間が有っても良いのではなか。又意見聴取が1人5分というのではなかあからなか、説明が40~50分に対して、聴取時間は20~30分とは、現在問題にあっては、原案の説明会や公聴会とまったく同じではないのか？</p> <p>数十年前に計画されたダム予算がこの後十年も先に完成するダム予算が1,238億円とはまことに不可思議な数字ですか？</p>			

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[Redacted]				
②住所	[Redacted]				
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④職業	年金生活+農園	⑤年齢	65	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由様式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>はじめに～ダム建設と環境破壊について～</p> <p>10月の13日か20日のNHKラジオの「旺くらぶ」にて思ひのほか、 熊出没問題で日本防犯機構会長の伊藤和明氏がい 言いました。熊を撃つ殺すのではなく「人間と動植物自然 は共存しなければいけません」と言っておりました。 経歴 7.8年前で「ダム建設地調査」の件で「729号の草の落木 事件」が候補地でありました。自然破壊のダム建設は 変遷の時代かと思ひます。</p> <p>1) 農業用水について</p> <p>昭和30年代～40年代初期にかけて米の増産時代があり、 農村では開田、開田ゲーム、がありました。昭和40年代 半ば以降、今度はグローバル経済化の中で「水の涵養政策 」が始まりました。米作の等の農業用水はダムを造って 充てる。言われてはダム建設は「米増産時代の遺物」 であります。私の住む近くの「西郷湖地区上下通りの歩道の拡 中工事」と同じで、見違、生態が激減して「工事の年」の 後と経たないで、市民の批判が今、国政に向かっているのと同じです。</p>			

(意見書提出様式)										
国土交通省東北整備局湯沢河川国道事務所										
開発調査課 御中										
「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書										
(案案)一に対する意見聴取について										
①	氏名(フリガナ) [REDACTED]									
②	住所 [REDACTED]									
③	電話番号 [REDACTED]									
④	職業	年金	生活	十	農	園	⑤	年齢	男	性別
はじめに、ダム建設と自然環境破壊について										
一〇月の一三日か二十日のNHKラジオの										
朝番組の「土曜コラム」で「クマ出没」問題										
で日本防災士機構会長の伊藤和明氏が「クマ										
を撃ち殺す」のでなく「人間と動食物、自然										
は共存しなければだめ」と言っておりました。										
九年前の秋と思われませんが、「ダム建設地										
調査」に伴って「クマ鷹の巣の落下事件」が										
候補地でありましたが、もう自然破壊のダム										
建設政策は変える時代だと近年世界の常識に										
なりつつあります。										

I、農業用水について
 昭和三〇年代、四〇年代初めにかけて「米
 の増産時代」があり、農村では「開畑、開田
 プーム」がありました。昭和四〇年代半ば
 に入り、今度はグローバル経済の中で「米の
 減反政策」がはじまりましたが、米作の為の
 農業用水はダムを造らなくても十分です。
 言ってみればダム建設は「米増産時代の遺
 物」です。
 私の住む近くの「醍醐地区上下通りの街道
 の拡幅工事」と同じで児童生徒数が激減して
 も工事そのものが延々と続いていて、市民の
 批判が今国政や国交省、挙句世話人に向けら
 れているのと同じです。
 II、治水、洪水防止効果について
 治水効果にしても成瀬ダム建設の「費用対
 効果」は〇・九五前後とダム研究家の
 さんは税金の無駄遣いだと厳しく言及してお
 ります。そのダム建設に一五三〇億円の費用
 がかかると言われ、完成までの実額費用は全

国や県北の「森吉山ダム」の様に「倍近くの費用がかかる」と言われています。

一〇月二二日の検討報告会でのご説明にありましたが、雄物川水害見込地区の仙北強首地区等では堤防の嵩上げをすればダム建設よりはるかに安い費用で水害が防げる事はかつての国道一三号沿いの西仙北刈和野地区の「洪水常習地帯」が堤防の嵩上げ工事で「一挙解決」したのを見ると、まして成瀬川上流奥地のダム工事が雄物川中流の治水に効果あると、いうのに疑問を持たないのがおかしいと言えます。

Ⅲの「自然破壊の水質汚濁」について、ダム建設による水質汚濁についてですが、大松川ダム建設に伴う影響と思われれますが、近年鮎釣り客はめっきり少なくなりました。

これは降雨後の成瀬川とダム建設川の合流地点とその下流を見れば歴然としています。

正に清流と濁流の違いです。近年下流の鮎の魚体はドンドン小さくなっております。

取の自然環境と水質汚濁等について
 秋田県南南部の役内川は今も清流としてア
 ニ釣り大会や花火大会等人々が楽しく集う所
 ですが、上流のダム建設に反対する激しい運
 動が展開され、ダム建設が中止となり、県南
 南部の唯一の清流として今益々その存在価値
 が大きい事を国交省担当者は認識すべきです。
 ダム建設が進めば成瀬川のアニ釣り大会は開
 催不可能となります。
 ダムのない「日本最後の清流」として四国
 四万十川が取りざたされていますが、我々は
 秋田湾開発構想に対応した玉川上流のあのこ
 の世のものかと思われる程の景勝地を玉川ダ
 ムの湖底に沈めたダム開発を忘れる事は出来
 ません。不要になった、巨額の経費を投入し
 たダム開発の責任は誰一人として取らないの
 が行政と官僚たちです。お人よしと見下げら
 れてきた秋田県民ですが皆知っていますよ。
 役内川も成瀬川も今が一番です。赤滝の景
 勝地等も自然遺産として絶対残すべきです。

—	終	わ	り	に	—	ま	と	め	に	替	え	て	—						
①	、	ダ	ム	建	設	で	榮	え	た	地	域	は	ど	こ	に	も	あ	り	ま
せ	ん	。	近	く	の	湯	田	ダ	ム	然	り	。	偏	い	文	句	と	違	い
現	実	の	過	疎	化	の	激	し	い	現	実	を	行	政	は	見	る	べ	き
②	、	五	〇	年	来	の	猛	暑	と	言	わ	れ	た	今	年	の	夏	も	水
田	の	水	不	足	は	あ	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	お	米	も	ほ	ぼ
常	作	で	し	た	。														
③	「	建	設	あ	り	き	」	の	既	成	事	実	化	を	目	論	む	だ	け
の	、	反	対	意	見	者	も	含	め	た	市	民	の	入	ら	な	い	自	治
体	首	長	中	心	の	「	有	識	者	会	議	」	は	国	民	を	見	下	す
愚	衆	政	治	で	す	。	人	数	を	制	限	し	な	い	、	オ	ー	プ	ン
な	真	に	公	開	の	意	見	公	聴	会	を	開	催	す	べ	き	で	す	。
④	農	業	用	水	の	「	受	益	者	」	と	い	わ	れ	る	農	家	負	担
を	免	除	し	、	負	担	を	求	め	な	い	ダ	ム	建	設	に	違	法	
性	は	あ	り	ま	せ	ん	か	。	ご	返	答	を	待	っ	て	お	り	ま	す
⑤	「	報	告	書	」	の	4	、	4	の	新	規	利	水	（	水	道	事	業
）	に	つ	い	て	で	す	が	こ	の	扇	状	地	形	と	盆	地	で	現	状
の	地	下	水	併	用	で	十	分	で	全	く	無	駄	な	投	資	で	す	。
⑥	ダ	ム	神	話	で	既	存	の	溜	池	が	今	放	棄	の	状	態	で	す
⑦	治	水	も	増	税	が	伴	わ	な	い	当	該	地	の	基	上	で	充	分

(意見提出様式)

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 開発調査課 宛

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」
に対する意見聴取について

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]				
②住所	[REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④職業	なし	⑤年齢	82	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は200文字以内で記載してください。(一つのご意見が200文字を超える場合は、別途自由形式に記載してください。併せて以下の枠内にその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>1 事業の理念との整合性を求めます。それがないと折角の具体的検証が意味のないものとなります。</p> <p>2 自然の水の利用と管理、その水はみな同様に自然から供給されます。それを皆で勝手に使おうとするという現実があります。</p> <p>3 素案の理念では自然との調和を今後に求めています。そのような技術思想で検証されているのでしょうか。</p> <p>詳細は以下別紙を添付します。</p>			

事業計画の理念というもの

およそ事業計画には理念というものがあります。これは事業の屋台骨をなすもので、細かな具体的設計以前の大切なもの、この膨大な内容と作業のご努力は大変なものとお察ししますが、それを支配する根本的なもの、そこが如何様に評価され検証されたのかを読もうとしましたが、素案の中に十分な確認もしないままの私見を申し上げる非礼をお許しください。

当局事業者 HP には「雄物川水系河川整備計画国管理区間素案」という文書(h21、以下「河川整備計画素案」)があり、その冒頭に唱えられる理念は、今日の河川法にほぼそった内容とみられ現在の私としても共感部分多く、この「河川整備計画素案」を念頭の成瀬ダム事業と理解させていただきます。そこでこの「河川整備計画素案」と「成瀬ダム検証素案」との整合性について、私なりの気付く主な点を述べさせていただくこととしました。

雄物川流域全体の概念図を想起してください。

山地と平地、山地から流下する河川水は、長い歴史的年月を経てその下流の山地を掘削し、ある時はそこに堆積して何段ものテラス(平地)を形成して、この横手盆地の原風景を作りだしました。堆積物は前面に丘後ろに低湿地など、その周辺や処々に林地を広げました。人々の暮らしはこうしたテラスの上に田畑や生活用水を求め、あるいは道路を延ばしてその文化を作り出していきました。

天からの水・一元的な水

この人々の暮らしを支え、ある場合はそれを危険にさらし脅かす河川の水は、どこから注がれ、どこから供給されるのか、それはこの地域全体へ天から与えられる水、降水のみであり、またそれ以上でもありません。

処々に湧出する泉、それを補給する伏流水や人の造るダムの水も、全て一元的に天からの恵み、それで全てであり、それにプラスマイナスはありません。このことを先ず確認しておきます。ダムも水を蓄えますが、元をいえば天からの物、地下水はより巨大な自然のダムですがその殆どは地表から浸透し涵養される流水や降水によるものです。

この一元的な水は、その年によって増減を伴い、その地域独自の分布の変動をとまいません。

そして一方ではこの一元的な自然の水をめぐって、それを制御し、あるいは利用しようとしている人々、そのまとめ役としてのお役所の管理が機能

しています。

お役所とは何処でしょう。表面的には現状としては国土交通省、ただ一省に任されていると言えれば聞こえはいいのですが、これは当該者国土交通省にとって極めて迷惑かつ課題の多い要件を含む任務であることを指摘させていただきます。

ヤマタノオロチという現実・その裏舞台の姿...

それは何故か、具体的にはこの広い横手盆地の水を巡っては、様々な行政省庁－厚生労働省、産業経済省、ある場合は環境省や地方行政などが主体的にその水を利用あるいは制御しているという現実があります。

もう一度この横手盆地を巡る地域の全体像を確認してみてください。時間の関係でその河床を流下する表流水を中心に検証したいと存じます。

「河川整備計画素案」に於ける三つ目の理念には、「雄物川が基軸となって形成された歴史・文化や自然環境が調和した人と川とがふれあえる場の整備保全に努め、」という文言があります。この理念にそって過去の歴史をたどりますと、かつて幕藩時代の雄物川の流れを遡って、土崎港から角間川港(現大曲市)までは500石積みに近い大きな船が往来し2していたことが史実として残っています。また年々遡上する鮭をめぐっての川漁集落も発達していました。

この地域最初の陸地測量部作製5万分の一(大正2年)を眺めますと、岩崎橋下あたりにも船着場があり、私の生まれる10数年前のころには、十文字町志摩あたりでは日常的に物資の運搬が船によって行われていたことがわかります。この時代をふり返り、現在の河川床の自然流量を想起しますと、今やカヌーもやっと通れるか通れないかという今日の現実は何を意味するのでしょうか。

船運に頼った幕藩時代の頃にもそれ類似した事態は進展していました。江戸中期、新田開発が盛んになり、農業利水が求められ水争い絶え間なく、船運にかかわる人々との間にも抗争が起こりがちだった事実を伝えています。時の行政当局は、物資輸送の根幹であった船運を守るために雄物川本流は常時船道6～7間明けておくこと(自然流量確保)が義務付け、身勝手な灌漑用水確保の川止めは制約されておりました。

今日と比較しますと、今あるものを「調和」の原理で調整するのではなく、農政省はダム建設で水利権という「水」をつくりだし、それによって土地改良事業を展開します。この水利権というものは自然の水ではありません。もしも降ってくれば「溜まる水」です。そして降らなくても「溜まること

た水」です。リーマンショックの主人公、上手くいけばボロイ金が入る債権、下手すれば空手形のそれと似ている「人間の偉大な知恵」と、どこか似ていませんか。

今回の事業計画で事業の賛否が賑わった十数年前、旧田根森村田村用水路末端部に位置する方の一人が、今水に困っているのだと訴えたという新聞記事がありました。同地域のある土地改良区理事は私に「本当は此処でもほぼ間に合っているのだ」と断言しました。同じ田根森村で前回の土地改良区代表理事であった●さんは私に二度もこんな証言をしてくれました。昭和40年代から進んだ前回国営土地改良事業の進行途中で、にわか放浪されていたその地域一部に強引な新規開田という参加要請が行われたと言いつつ困った。その中には高低差からいっても灌水やや困難な地域だったと言います。欲しければいくらでも要請すれば金で安く入手できる「水」、これが今回の具体的検証では何処まで行われたのかを問います。

個々の小さなトラブルの積み重ねも大切ですが、管理当局農水省の利用と管理の実態こそより根本的な課題です。洪水と係わって秋雨前線通過や台風接近時などの降水の行方はどう管理されているのでしょうか。農水省 HP にかかげる「農地の洪水調節機能」は本当に機能しているのか。私の見るところはまったく別で、要らない水として幹線水路へ捨てられているという現実はないと言えるのでしょうか。それは全く絵に描いた餅で、むしろ逆の洪水増幅調節機能が進行中だとしたら国土交通省はどう対応すべきでしょうか。

そして大量の降水は平坦地にも襲いますが、この広い盆地自体に降った天からの降水は、農業用水の構造と管理によって新幹線化して一気に河道(国土交通省管理)へ向かって放出されているのが今日の姿ではないでしょうか。なぜ「新幹線化した農業用水」なのかの説明は時間の関係で省きます。作られた水路そのものの設計思想・理念が、「水の無駄遣い構造と管理」にあるからです。

こんないい加減な水路の無い時代にも洪水はありましたが、当時は農地を上から下へ順次に平地を埋めるように流れくんだり、あるいは残された低湿地に貯留され、または農地などから浸透して地下水を涵養して、この場合は1ヶ月弱のピークカットの働きまで果たしておりました。先にあげた大正時代の地図の中の農家たち、岩崎村や十文字村の一部では限りがある与えられた「水」を、極力広い水田に利用しようとする21世紀型の技術哲学(共生)が、地図の上の形として残されております。今日の現存土

地改良技術は、90年近くも昔のこの思想からの反省と行政当局個々バラバラではなく学ぶべきものが見えてきます。

この辺りの事実は国土交通省の河川審議会席上でも、一部委員から時に指摘されたりもしておりますが、今回の検証ではこのことがどう処理されているのでしょうか。

かようにして国土交通省に課せられる洪水調節の機能は、恣意的な他省庁などの事業や管理によって、パベルの塔のように積みあがるばかりであるという事実の可能性を指摘しておきたいと存じます。

同様の事は、こと山地においても認められ、洪水時のハイドログラフを見ただけならば明らかに納得されることではないかと存じます。山地に盛んに行われた林道や開発道路などの過剰工事、森林管理局の裸地データなども参考としてご判断ください。

戦後の雄物川洪水史に残る昭和22年の被害は、かつてない降水量のみを指摘されていますが、東成瀬村で山師(原木の売買)を営んだ●氏(91才健在)、戦時中の栗駒山頂近くの硫黄鉱山開発事業と、その搬出のための乱開発は、山地の荒廃目を蔽うものだったといい、洪水の被害を大きく拡大させたと私に直接語っております。

戦中の木造船増産計画など、森林の大規模破壊は全県的に多くの史実が残されており、これは多くの識者の指摘するところではありますが如何様な検証のそれが今回のそれで行われたのか確認を求めます。

雄物川流域に於ける平地面積1,305km²の59%は耕地、13%は宅地、12%荒地ということで既に平地の84%前後が占められているという今日、道路等の一部を含めても国土交通省管轄の堤体外水路へ流入する水の量は、ダムによる水利権設定だけでも、今後も果てしなく続く事態が予想されています。自然界が天から供給する一元的な水の量とは関係なく、水利権と言う人間の作る化け物が今後も国土交通省へ挑みかかってくる構図が見えてくるようではありません。

今一度基本計画の冒頭に掲げられた理念に相当するのではないかと言う文言を反復します。

「雄物川が基軸となって形成された歴史・文化や自然環境が調和した人と川とがふれあえる場の整備保全に努め、」という表現の後に、「豊かな自然を次世代へ受け継ぎ、さらには流域の人と自然と社会が調和した活力

ある地域を創造する雄物川の整備をめざします」とあります。

「人と自然と社会が調和した活力ある地域」、なんと素晴らしい理念ではありませんか、自然の制約を無視し、調和を捨てた恣意的水利用と無駄遣いの実態、此処からの決別には何が必要でしょうか。

今後の洪水調節のための既設ストックダムの管理に、集積した最近の気象情報、とくに微気象との関連などのご検討も、時間の関係で割愛しますが大きな有効性を指摘しておきます。

とくに平成6年雄物川筋土地改良区旱魃問題での具体的指摘

成瀬ダム検証素案 PDF(以下素案と略す)2-35～36「水田洪水被害」に対して我々は数百ページに及ぶ法的技術的矛盾を指摘することが出来るのに、検証委員会にはほとんどふれる時間も能力も無かったのだろうか。

1 7,8月期の流量が椽川地点では平成元年を除いては正常流量に近い現実のそれにたいして、岩崎橋付近のそれは示されたデータの50%は洪水年(極端な流量低下)となっている。これはこの地域の当該時期降水量が、玉川地域の半分に近いと言う周知の気象的事実であるのに、当該地域ダム皆瀬ダムの運転規則(水利権?)では7月以降には洪水期設定としての放流が義務付けられてきた。地元の実情に疎い中央での決定を遵守し(寺田知事もその規則是正による200万m³確保案に期待を示したが)、結果として6月末でのダム貯水量をより多くできる既設ダムストック転用という技術的可能性は放棄させられた。

現佐竹知事の素案中に残された今日の気象条件激変の状況についての指摘には、二つの対応案選択の余地がある。①だから早急に更にゆとりあるダム新設を。②自然界の数値のぶれへの対応には、自然の一部でしかない人間のそれには限界がある。今年の各地降水量比較を試みるならばその結果は明白である。

2012/06～09降水量(mm)			
地域名 \ 月	6	7	8
横手	40	235	46
湯沢	27	189	64
東成瀬	38	208.5	53.5
角館	44	221	85.5
八森	78.5	200.5	57.5
田沢湖	84	251	138.5
熊本市	598.5	488.5	142.5
地域名\日最大			
	6	7	8
横手	15.5	84.5	23
湯沢	7	50	21.5
東成瀬	8.5	52	24
角館	11	66	39.5
八森	21.5	113	28.5
田沢湖	27.5	91	67
熊本市	223.5	183	34.5

湯沢の7mm,横手の16mmと熊本の224mm、現在のその10倍の貯水量をさい最終的には求めて安心を得ると言う「ローマの水道橋」の図さえ見えてくる。

今年自然界の現況への順応という対応の中でそれを切り抜けた。行政も住民もそれぞれの対応に努力したが、そのコストは30～50年というランニングコスト等と比較した作業も住んだのであろうか。そしてその努力は寺田案でもかなりのペイが保障されたはずではないのだろうか。自然に合わせる(21世紀的な理念に合うが、)新しい模索にあたらしい展望はないのだろうか。

2 素案2-36に記してある「稲の立ち枯れ」地区の実態について私達の聞き取りでは、たとえば醜

嗣・マグラ地区(魁新聞写真)のそれは、当該水路より高い位置の水田であったり、田根森・根田谷地のそれは日常から水管理をささやかれるその一軒の場所であったと聞いている。

3 いずれダム事情の分からない土地改良区と農家は、たしかにこの緊急事態に労力を費やしたが、結果は空前の豊作であった。旧農林水産統計事務所からの水稲被害統計について戦後の分を我々は集積してきた。そのデータ値推移からは、今日では農業に於ける洪水統計値はカウントされなくなっているという事実を、検証過程ではいかように評価されたのか不思議である。一方、翌平成6年は正に豊水年であったが、全国的な凶作の年となり、外米の輸入されたという事実から何を学ぶか。

*平成6年の旱魃被害はゼロに近かったが、翌7年の日照不足等での水稲被害額は約5万tとカウントされ、10k当1500円とすれば、前年の農家・土地改良区職員の努力はざっと75億円の配当があつてよかつたはずである。毎年平均的には気象災害(旱魃以外)での損失は2万t前後であり、トータル現況でのベネフィット分30億円前後と計算してはいけないのか。

この場合も実はこれまでの国直轄土地改良事業の無駄遣い水路という「成長神話型設計思想」による構造的欠陥を指摘しておく必要がある。それは技術的にも法律的にも「水資源の使い捨て」理念にある。このことを以前にダム反対の農家に提案したところ、彼らからまで「お前は農家に敵しすぎる」という非難を受けた。

しかし今日に至って、農家の中にも一般人にも「構造的無駄遣い構造」は明白になりつつある。全く事態の異なる洪水という出来事で説明しよう。今年2012年7月6日未明の十文字町の一部から浅舞地区、雄物川町の一部などに発生した洪水などは正にその結果そのものであるが、水が新幹線並みに走り抜けているという事実からの出来事、こうした出来事は毎年のようにくりかえされている事であるが時間なく説明をりやくす。

木を見て森を見ず、「中央官庁」一極支配の技術思想、資源・エネルギー問題の限界に突入した21世紀の「農業利水技術」「ダム利水の理念」はいかにあるべきか、学識経験者の皆さんや有識者と言う名の皆さん、無知と評価されるかもしれない地域住民との相互協力が、あなたの歴史的名誉のためにも今求められているように思われます。

生活用水等の不足とその解決

上水への利水問題についても同様である。対象となる表流水・地下水をめぐっての実態把握そのものがお粗末な前世紀的理念にしばられている。

当横手市のみならず仙北に至るまでこの横手盆地は地下水と言う巨大な自然の地下ダムに恵まれている。しかしその利用は正に無政府状態としか言いようがない。人間の能力をはるかに超えた自然のダムといえどもそれは有限であり、その収支の均衡が求められております。その収入は主に地表からの浸透水によって涵養されます。

*仮に横手土地改良区1万haよりの日供給量はどれほどか。耕作放棄地も塞がなければ同じで、今回の農水省土地改良事業計画書のその日減水深約25mmをもとに計算します(実際はそれよりずっと少ない)、浸透分12mm/dayとして1万haで1日12000tと言う計算になります。

それを9月以降は水利権がないからと田んぼを干し、一方ポンプは勝手に使う。伏流水は国土交通省、農業用水は別、経済産業省も野放し? 消雪パイプも使い放題(横手市の一部は制限中)、これで地下水低下が起きないはずがない。かつての東京都での制限令は当時のエアコン等による浪費で数十mも水位低下を来たし地盤沈下さえみられましたが、それを解決し以前より水位の上昇した地域も出てきました。野放図な自然利用の怖さをノンビリ者の秋田人や学識経験者の皆さんは、今一度自然の中の私たちであり、自然の中に生かしてもらっているという事実早く気付くべきです。福島原発は極端な未来へのコストを残しましたが、自然の破壊ほど高価なものはありません。

ません。幸いなことに現況の上水などの多くは伏流水であり、そこには自然界生物達の活動による水の浄化能力がタダで働いております。私の属する「生物ろ過方式」の水道技術者たちは、そこに新しい技術的展開を今世界に向けて発信しております。

＊大仙市南外村の水道事業についてはかつて少しばかりの調査をしましたが、未普及地の多くへの水供給にはランニングコスト高く(ポンプアップ10m毎に電気料だけでほぼ10%アップ)、利用戸数も散在しております。そこへの持続的かつ安全で美味しい水の安価な供給について共同研究が進められ、その解決策が提案進行中です。

地下水水資源のような対象についての利用と制御に、あらゆる省庁や地域行政機関もからんだプロジェクトを立ち上げるべきであり、出来るエリアからより現実的な提案を少しずつ作り出していくことが肝要ではないのかと思います。

整備計画の事業理念に戻っての検証・検討を！

「雄物川水系河川整備計画国管理区間案」の最初にあります理念に戻り、「人と自然と社会が調和した活力ある地域」とはいかような思考をこらし検証すべきか、自然の制約を無視し調和を捨てた恣意的水利用と無駄遣いからの決別には、利水のみならず洪水への対応、持続的経済と明日の技術的展望が見えてくることに気付いていただきたく存じます。